

鋁工業指數參考図表集
(2022年4月速報)

2022年5月31日

經濟解析室

URL : <https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

2022年4月の鉱工業指数(速報)各指数の状況

生産・出荷・在庫・在庫率指数

月次	生産	出荷	在庫	在庫率
季調済指数	95.2	93.3	98.4	115.6
前月比	-1.3%	0.0%	-2.5%	-3.2%
指数水準	2022.1 94.3以来 ①2020.5 77.2 ②2020.6 81.0 ③2020.4 86.3	—	2021.10 98.4以来 (超)2021.9 97.9以来 ①2021.5 94.2 ②2021.2,3 94.5 ③2021.4 94.7	2021.12 114.8以来 ①2014.3 89.1 ②2013.11 90.8 ③2014.1 91.8
前月比の動き	3か月ぶり— (2022.1以来)	—	2か月連続— (2022.3~当月)	4か月ぶり— (2021.12以来)
前月比幅	2022.1 -2.4%以来 ①2020.5 -10.5% ②2020.4 -10.3% ③2021.9 -6.5%	—	2015年基準最低水準 ①2022.4 -2.5% ②2020.5 -2.4% ③2013.11 -2.2%	2021.1 -4.0%以来 ①2020.6 -8.1% ②2020.7 -7.6% ③2014.3 -4.4%
前年同月比(原指数)	-4.8%(93.9)	-4.3%(91.2)	3.9%(97.1)	8.0%(114.9)
前年同月比の動き	2か月連続— (2022.3~当月)	4か月連続— (2022.1~当月)	8か月連続+ (2021.9~当月)	8か月連続+ (2021.9~当月)
前年同月比幅	2021.1 -5.3%以来 ①2020.5 -27.0% ②2020.6 -18.4% ③2020.7 -15.9%	2021.10 -5.9%以来 ①2020.5 -27.5% ②2020.4 -17.0% ③2020.7 -16.8%	2022.3 6.8%以来 I 2022.2 7.1% II 2014.11 7.0% III 2022.3 6.8%	2022.3 10.5%以来 I 2020.5 43.5% II 2020.4 29.7% III 2020.6 23.9%

1) I～Ⅲは2015年基準における最大値から上位3位まで、①～③は最小値から下位3位までの数値

2022年4月の鉱工業生産の基調判断

「生産は足踏みをしている」

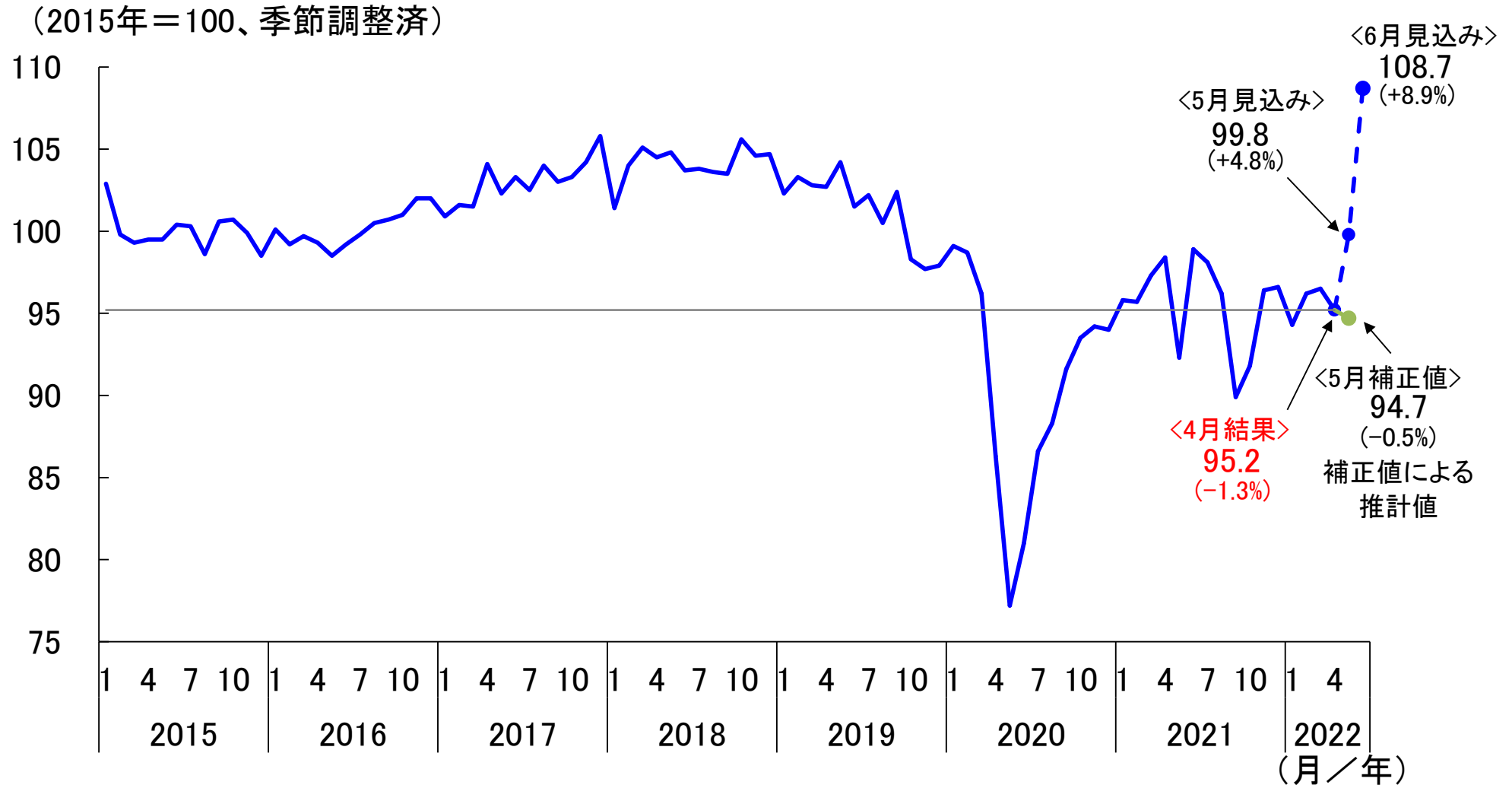
基調判断の推移

2018年10月～12月	(↑)	「生産は緩やかな持ち直し」
2019年1月～2月	(↓)	「生産は足踏みをしている」
2019年3月	(↓)	「生産はこのところ弱含み」
2019年4月～7月	(↑)	「生産は一進一退」
2019年8月～9月	(↓)	「生産はこのところ弱含み」
2019年10月～12月	(→)	「生産は弱含み」
2020年1月～2月	(↑)	「生産は一進一退ながら弱含み」
2020年3月	(↓)	「生産は低下している」
2020年4月～5月	(↓)	「生産は急速に低下している」
2020年6月	(↑)	「生産は下げ止まり、持ち直しの動き」
2020年7月	(→)	「生産は持ち直しの動き」
2020年8月～2021年7月	(↑)	「生産は持ち直している」
2021年8月～10月	(↓)	「生産は足踏みをしている」
2021年11月～2022年3月	(↑)	「生産は持ち直しの動きがみられる」
2022年4月～	(↓)	「生産は足踏みをしている」

(注) 「↑」前回の基調判断から上方修正、「↓」前回の基調判断から下方修正、「→」表現変更

鋳工業生産指数の動向と先行き

・ 2022年4月の鋳工業生産指数は、95.2(前月比-1.3%)と3か月ぶりの低下。



(注) 鋳工業指数(IIP)とは、月々の鋳工業の生産、出荷、在庫等を基準年(現在は、2015年)の12か月平均=100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など

鋳工業全体の動きを示す代表的な指標

(注) 補正値は、製造工業生産予測指数がもつ傾向的な部分を修正し、実際の鋳工業指数の動きをより適切に把握できるように試算したもの

2022年4月の鉱工業生産指数を大きく動かした品目(業種別)

・ 2022年4月の鉱工業生産指数は、95.2(前月比-1.3%)と3か月ぶりの低下。

		業種・品目名	前月比	寄与度
【低下方向に寄与】 鉱工業生産を低下方向へ引っ張った3業種の中で低下への影響度が大きい2品目	1位の業種	電子部品・デバイス工業	-6.6%	-0.48%pt
	品目	モス型半導体集積回路(メモリ)	-12.5%	-0.22%pt
		アクティブ型液晶パネル(中・小型)	-47.0%	-0.14%pt
	2位の業種	生産用機械工業	-2.7%	-0.25%pt
	品目	シヨベル系掘削機械	-17.5%	-0.26%pt
		半導体製造装置	-7.8%	-0.22%pt
【上昇方向に寄与】 鉱工業生産を上昇方向へ引っ張った3業種の中で上昇への影響度が大きい2品目	3位の業種	自動車工業	-0.6%	-0.08%pt
	品目	駆動伝導・操縦装置部品	-7.6%	-0.17%pt
		普通乗用車	-2.4%	-0.11%pt
	1位の業種	電気・情報通信機械工業	4.7%	0.37%pt
	品目	リチウムイオン蓄電池	21.1%	0.11%pt
		開閉制御装置	16.2%	0.09%pt
【上昇方向に寄与】 鉱工業生産を上昇方向へ引っ張った3業種の中で上昇への影響度が大きい2品目	2位の業種	汎用・業務用機械工業	3.5%	0.26%pt
	品目	一般用蒸気タービン	714.2%	0.22%pt
		空気圧機器	12.9%	0.09%pt
	3位の業種	化学工業(除.無機・有機化学工業・医薬品)	4.3%	0.17%pt
品目	仕上用化粧品	54.7%	0.18%pt	
	乳液・化粧水類	8.1%	0.08%pt	

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

2022年4月の鉱工業生産指数を大きく動かした品目(全体・財別)

<全体>

		品目名	前月比	寄与度
鉱工業生産を 低下方向に 引っ張った3品目	1位	ショベル系掘削機械	-17.5%	-0.26%pt
	2位	モス型半導体集積回路(メモリ)	-12.5%	-0.22%pt
	3位	半導体製造装置	-7.8%	-0.22%pt
鉱工業生産を 上昇方向に 引っ張った3品目	1位	一般用蒸気タービン	714.2%	0.22%pt
	2位	仕上用化粧品	54.7%	0.18%pt
	3位	リチウムイオン蓄電池	21.1%	0.11%pt

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

<財別＝用途別>

	解説	品目名	前月比	寄与度
生産財	原材料として投入される製品	生産財	-1.1%	-0.56%pt
		モス型半導体集積回路(メモリ)	-12.5%	-0.22%pt
		駆動伝導・操縦装置部品	-7.6%	-0.17%pt
耐久消費財	テレビや電気冷蔵庫など 家計で購入される製品	耐久消費財	-4.2%	-0.31%pt
		普通乗用車	-2.4%	-0.09%pt
		セパレート形エアコン	-11.9%	-0.06%pt
資本財 (除. 輸送機械)	クレーンや金属工作機械など 設備投資に向けられる製品	資本財(除. 輸送機械)	-0.9%	-0.13%pt
		ショベル系掘削機械	-17.5%	-0.26%pt
		半導体製造装置	-7.8%	-0.22%pt
建設財	鉄骨やセメントなど 建設投資に向けられる製品	建設財	4.8%	0.26%pt
		エレベータ	23.5%	0.08%pt
		ガス温水給湯暖房機・風呂がま	12.8%	0.03%pt
非耐久消費財	食料品や衣料品など 家計で購入される製品	非耐久消費財	2.8%	0.52%pt
		仕上用化粧品	54.7%	0.18%pt
		乳液・化粧水類	8.1%	0.08%pt

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

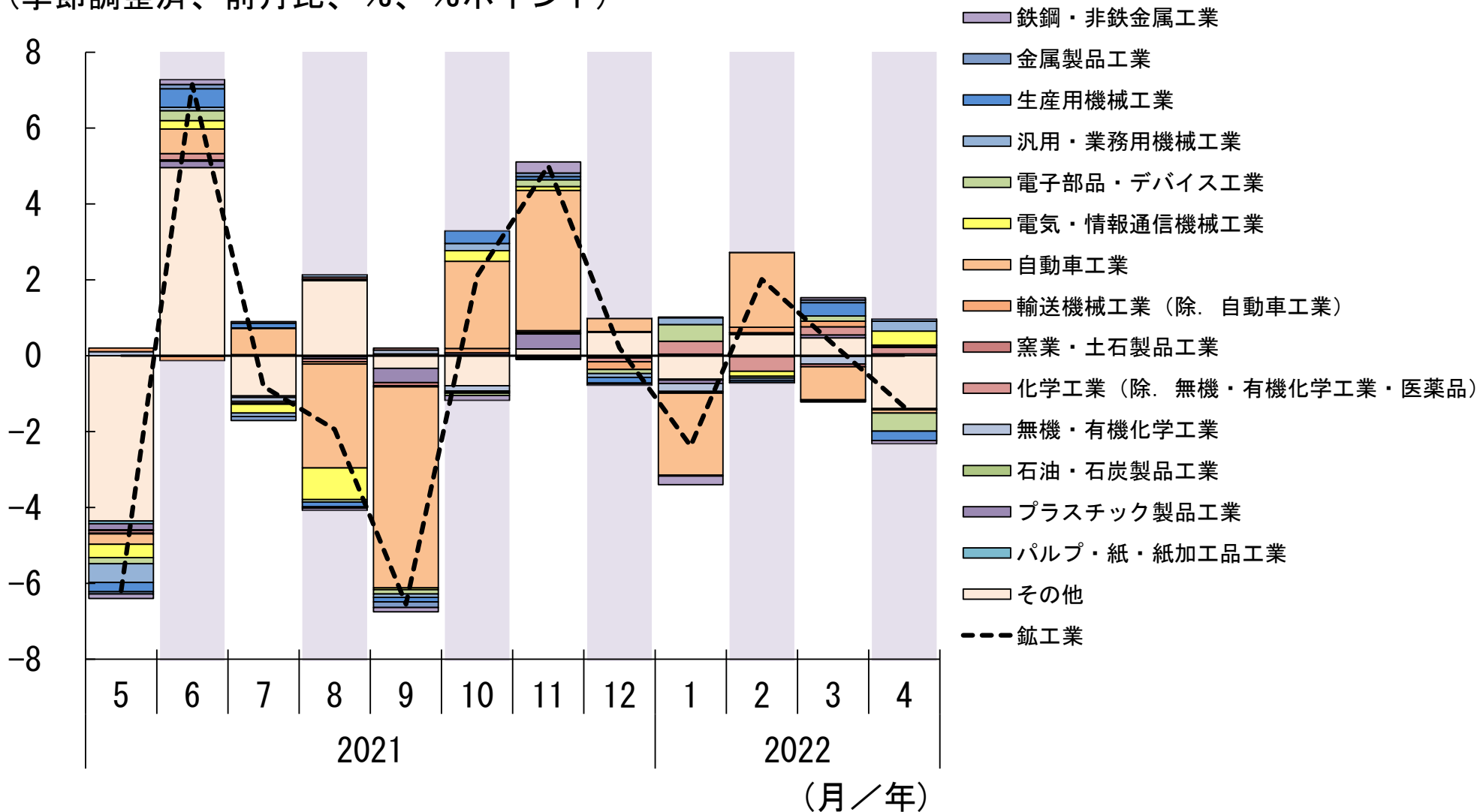
寄与度：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

鋳工業生産前月比 業種別の影響度合い

・2022年4月の生産指数は、電気・情報通信機械工業などが上昇したものの、電子部品・デバイス工業などが低下したため、前月比-1.3%と低下。

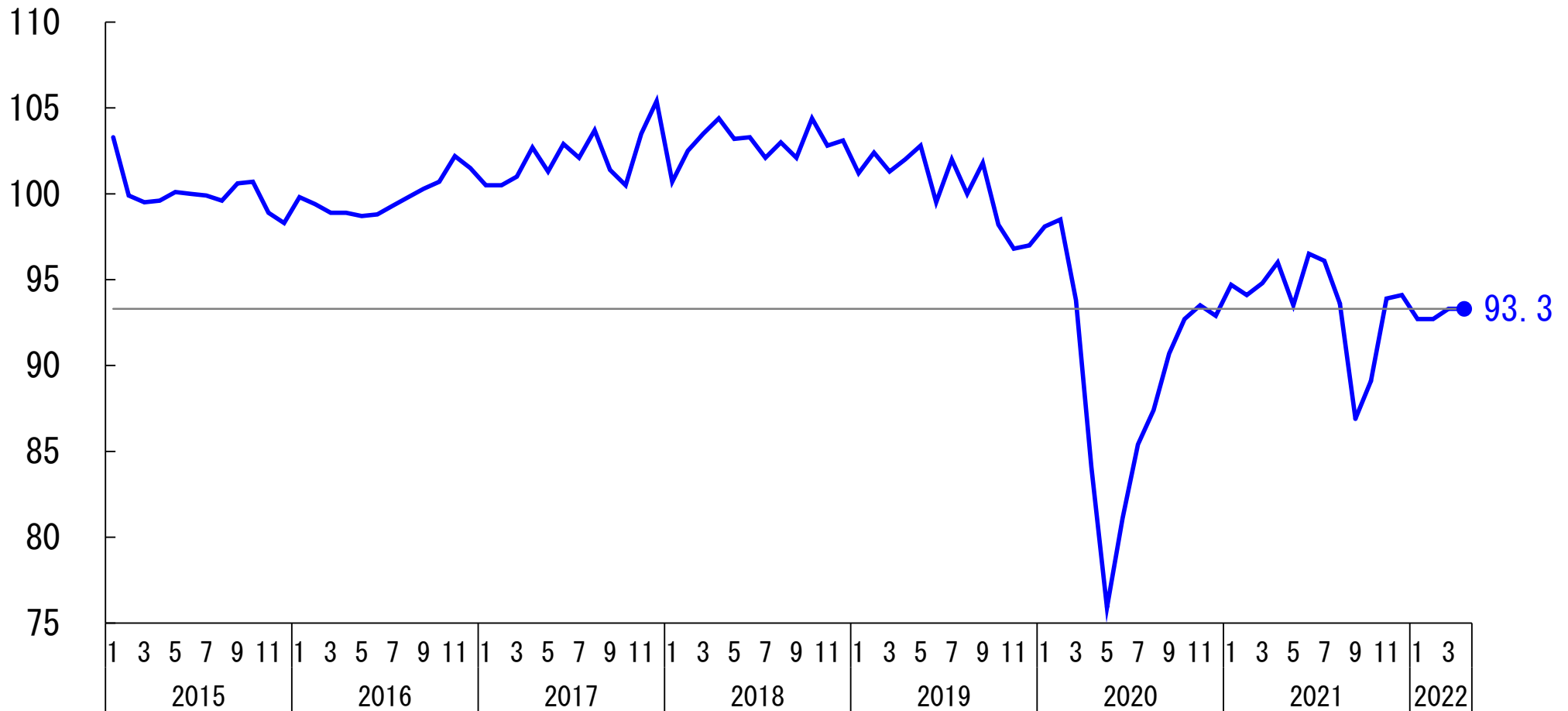
(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



鋳工業出荷指数の動向

・ 2022年4月の鋳工業出荷指数は、93.3(前月比0.0%)と横ばい。

(2015年=100、季節調整済)



(月/年)

2022年4月の鉱工業出荷指数を大きく動かした品目（業種別）

・ 2022年4月の鉱工業出荷指数は、93.3（前月比0.0%）と横ばい。

		業種・品目名	前月比	寄与度
【上昇方向に寄与】 鉱工業出荷を上昇方向へ引っ張った3業種の中で上昇への影響度が大きい2品目	1位の業種	電気・情報通信機械工業	6.7%	0.50%pt
	品目	リチウムイオン蓄電池	42.2%	0.29%pt
		開閉制御装置	16.3%	0.07%pt
	2位の業種	汎用・業務用機械工業	4.2%	0.27%pt
	品目	一般用蒸気タービン	766.7%	0.15%pt
		空気圧機器	12.8%	0.08%pt
3位の業種	輸送機械工業（除.自動車工業）	13.0%	0.25%pt	
品目	船用ディーゼル機関	28.5%	0.04%pt	
	フォークリフトトラック	16.3%	0.02%pt	
【低下方向に寄与】 鉱工業出荷を低下方向へ引っ張った3業種の中で低下への影響度が大きい2品目	1位の業種	電子部品・デバイス工業	-6.8%	-0.38%pt
	品目	モス型半導体集積回路（メモリ）	-30.2%	-0.35%pt
		アクティブ型液晶パネル（中・小型）	-21.9%	-0.08%pt
	2位の業種	石油・石炭製品工業	-2.8%	-0.17%pt
	品目	ガソリン	-4.2%	-0.11%pt
		灯油	-8.3%	-0.04%pt
3位の業種	生産用機械工業	-1.0%	-0.08%pt	
品目	シヨベル系掘削機械	-15.4%	-0.25%pt	
	繊維機械	-22.4%	-0.10%pt	

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

2022年4月の鉱工業出荷指数を大きく動かした品目(財別)

	解説	品目名	前月比	寄与度
非耐久消費財	食料品や衣料品など 家計で購入される製品	非耐久消費財	2.8%	0.45%pt
		仕上用化粧品	21.8%	0.05%pt
		乳液・化粧水類	2.0%	0.01%pt
資本財 (除. 輸送機械)	クレーンや金属工作機械など 設備投資に向けられる製品	資本財(除. 輸送機械)	2.2%	0.28%pt
		一般用蒸気タービン	766.7%	0.15%pt
		水管ボイラ	397.3%	0.07%pt
建設財	鉄骨やセメントなど 建設投資に向けられる製品	建設財	3.4%	0.19%pt
		ガス温水給湯暖房機・風呂がま	23.7%	0.06%pt
		エレベータ	23.2%	0.05%pt
耐久消費財	テレビや電気冷蔵庫など 家計で購入される製品	耐久消費財	0.1%	0.01%pt
		セパレート形エアコン	15.3%	0.06%pt
		普通乗用車	1.1%	0.05%pt
生産財	原材料として投入される製品	生産財	-1.4%	-0.73%pt
		モス型半導体集積回路(メモリ)	-30.2%	-0.35%pt
		航空機用機体部品	-40.3%	-0.10%pt

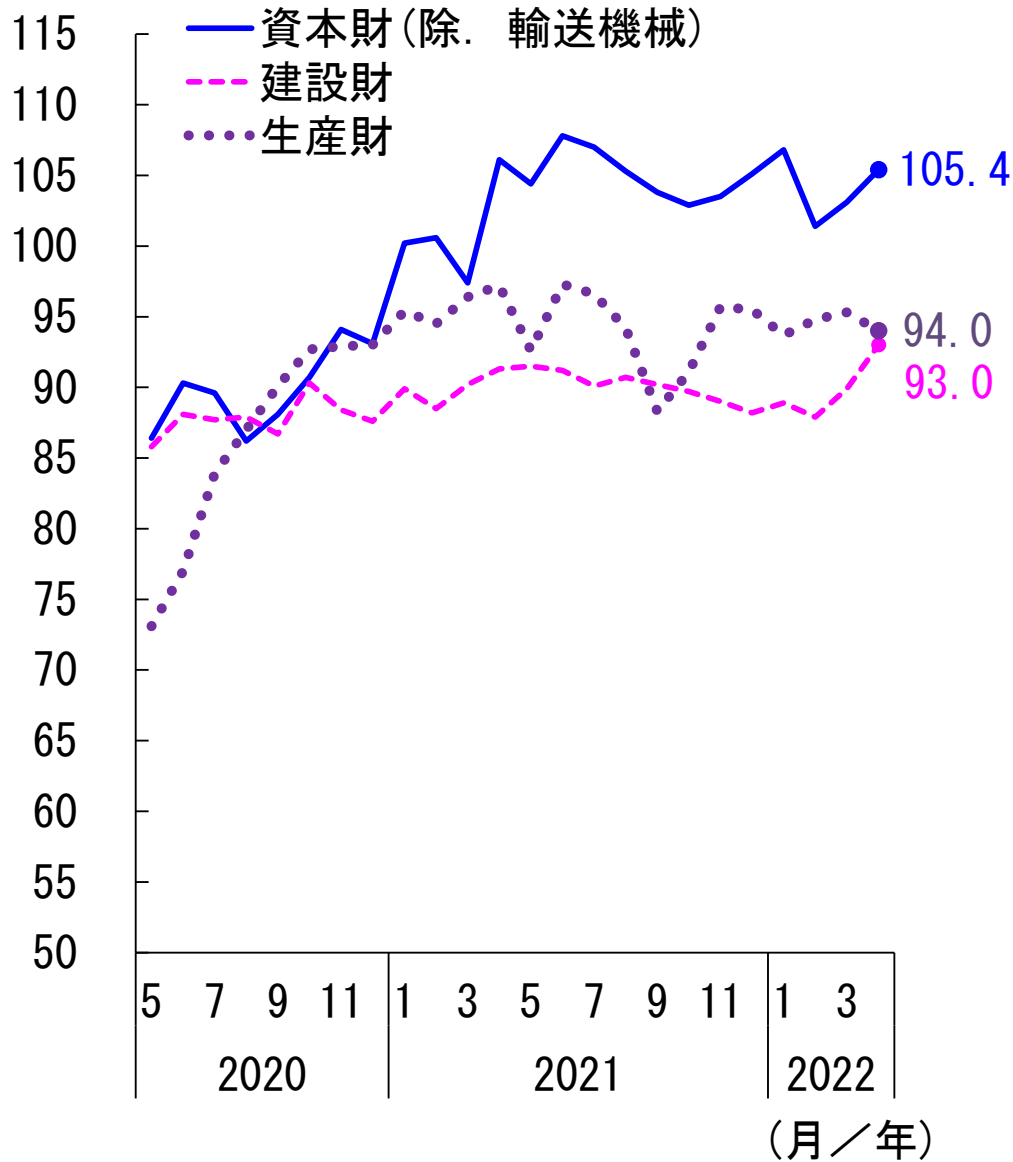
※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

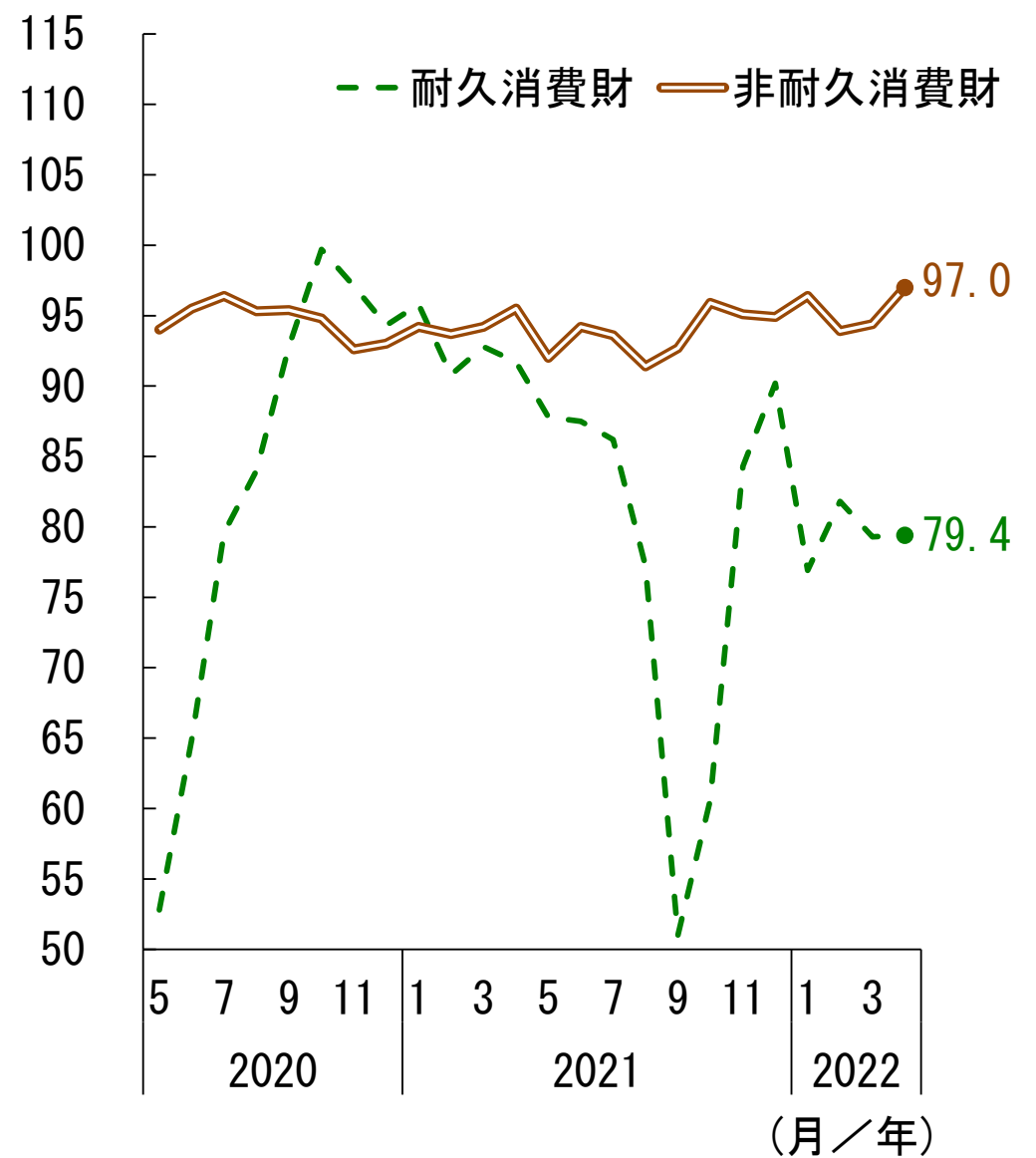
季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

財別出荷指数の動向

(2015年=100、季節調整済)



(2015年=100、季節調整済)



2022年4月の鉱工業在庫指数を大きく動かした品目（業種別）

・ 2022年4月の鉱工業在庫指数は、98.4（前月比-2.5%）と2か月連続の低下。

		業種・品目名	前月比	寄与度
【低下方向に寄与】 鉱工業在庫を低下方向へ引っ張った3業種の中で低下への影響度が大きい2品目	1位の業種	電気・情報通信機械工業	-7.3%	-0.50%pt
	品目	リチウムイオン蓄電池	-18.6%	-0.26%pt
		セパレート形エアコン	-17.9%	-0.15%pt
	2位の業種	生産用機械工業	-7.0%	-0.34%pt
	品目	ショベル系掘削機械	-17.0%	-0.19%pt
		装輪式トラクタ	-24.6%	-0.06%pt
3位の業種	汎用・業務用機械工業	-5.1%	-0.32%pt	
品目	精密測定機	-17.9%	-0.08%pt	
	カメラ	-18.8%	-0.06%pt	
【上昇方向に寄与】 鉱工業在庫を上昇方向へ引っ張った3業種の中で上昇への影響度が大きい2品目	1位の業種	石油・石炭製品工業	1.7%	0.08%pt
	品目	灯油	18.6%	0.09%pt
		ガソリン	2.8%	0.03%pt
	2位の業種	プラスチック製品工業	0.4%	0.02%pt
	品目	プラスチック製フィルム・シート	0.4%	0.01%pt
	3位の業種	輸送機械工業（除.自動車工業）	1.5%	0.00%pt
品目	ショベルトラック（除.建設用）	27.6%	0.01%pt	

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

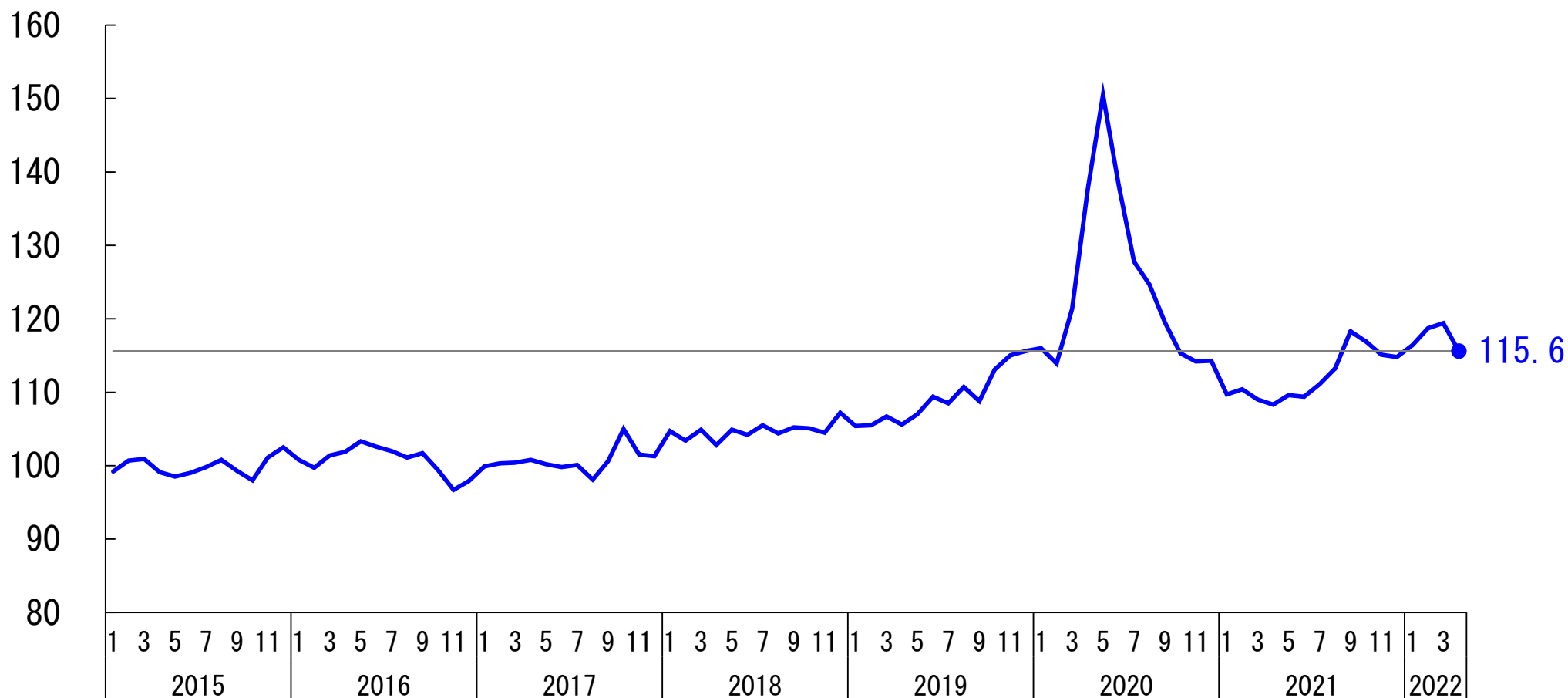
寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

鋳工業在庫率指数の動向

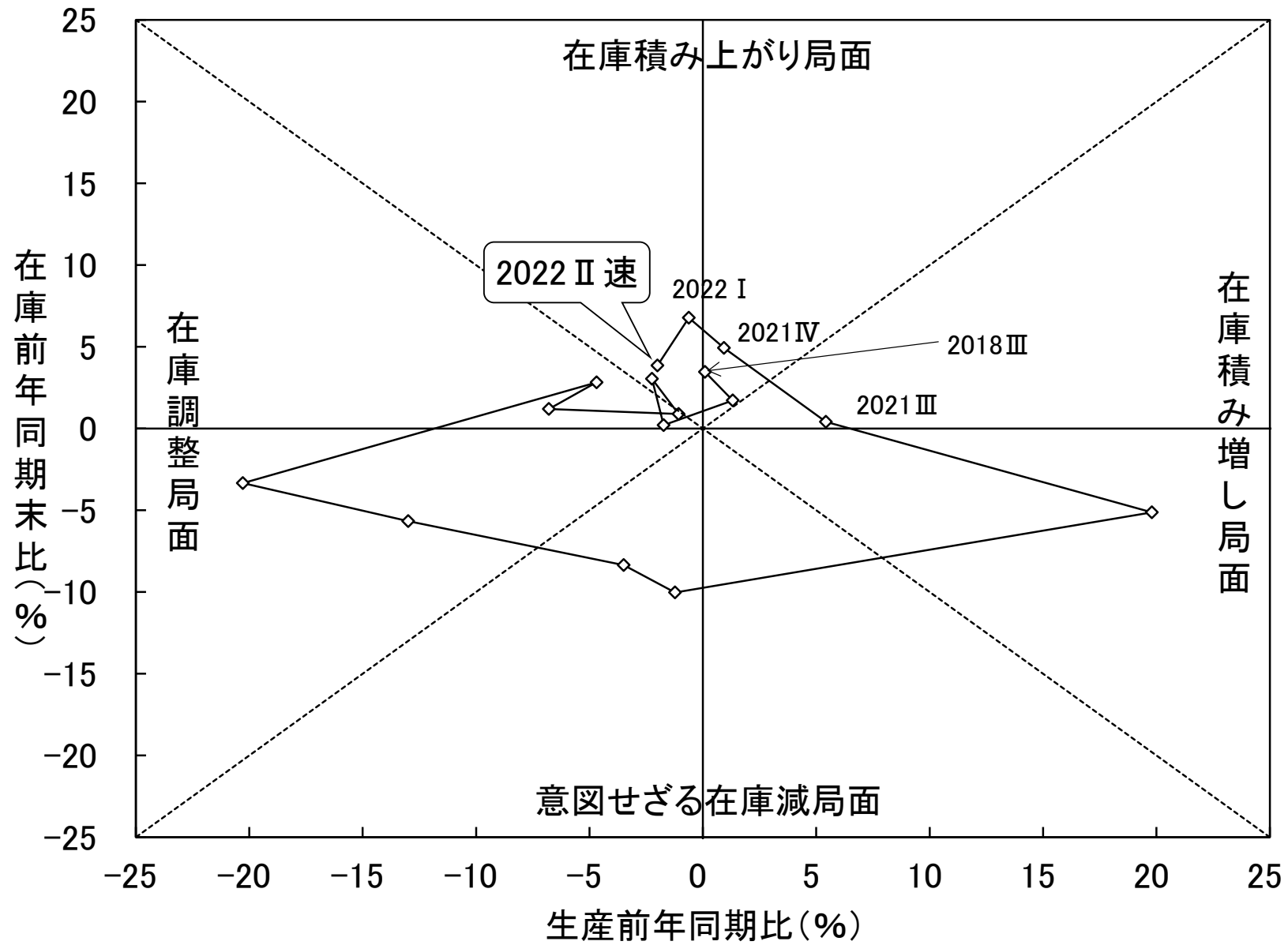
・ 2022年4月の鋳工業在庫率指数は、115.6(前月比-3.2%)と4か月ぶりの低下。

(2015年=100、季節調整済)



(月/年)

鋁工業の在庫循環図



(注) 「2022 II 速」の生産は2月、3月、4月の平均値、在庫は4月末の値を使用

製造工業生産予測指数 時系列

<製造工業>

2015年 = 100

年 月	季節調整済指数			前月比 (%)			実現率 (%)	予測修正率 (%)	
	前月実績	当月見込み	翌月見込み	前月実績	当月見込み	翌月見込み			
2021年	3月調査	98.2	99.0	106.0	▲ 0.5	0.8	7.1	▲ 3.3	1.2
	4月調査	99.2	105.5	102.2	1.0	6.4	▲ 3.1	0.2	▲ 0.5
	5月調査	101.3	101.0	105.7	2.1	▲ 0.3	4.7	▲ 4.0	▲ 1.2
	6月調査	96.1	104.9	103.2	▲ 5.1	9.2	▲ 1.6	▲ 4.9	▲ 0.8
	7月調査	102.9	102.1	104.6	7.1	▲ 0.8	2.4	▲ 1.9	▲ 1.1
	8月調査	99.0	103.5	104.4	▲ 3.8	4.5	0.9	▲ 3.0	▲ 1.1
	9月調査	97.9	97.9	105.4	▲ 1.1	0.0	7.7	▲ 5.4	▲ 6.2
	10月調査	94.3	101.1	105.6	▲ 3.7	7.2	4.5	▲ 3.7	▲ 4.1
	11月調査	95.5	102.8	105.2	1.3	7.6	2.3	▲ 5.5	▲ 2.7
	12月調査	100.7	102.4	107.7	5.4	1.7	5.2	▲ 2.0	▲ 2.7
2022年	1月調査	99.7	105.1	106.4	▲ 1.0	5.4	1.2	▲ 2.6	▲ 2.4
	2月調査	97.9	102.6	103.7	▲ 1.8	4.8	1.1	▲ 6.9	▲ 3.6
	3月調査	97.8	102.3	110.6	▲ 0.1	4.6	8.1	▲ 4.7	▲ 1.4
	4月調査	100.9	106.8	105.9	3.2	5.8	▲ 0.8	▲ 1.4	▲ 3.4
	5月調査	97.3	102.0	111.1	▲ 3.6	4.8	8.9	▲ 8.9	▲ 3.7

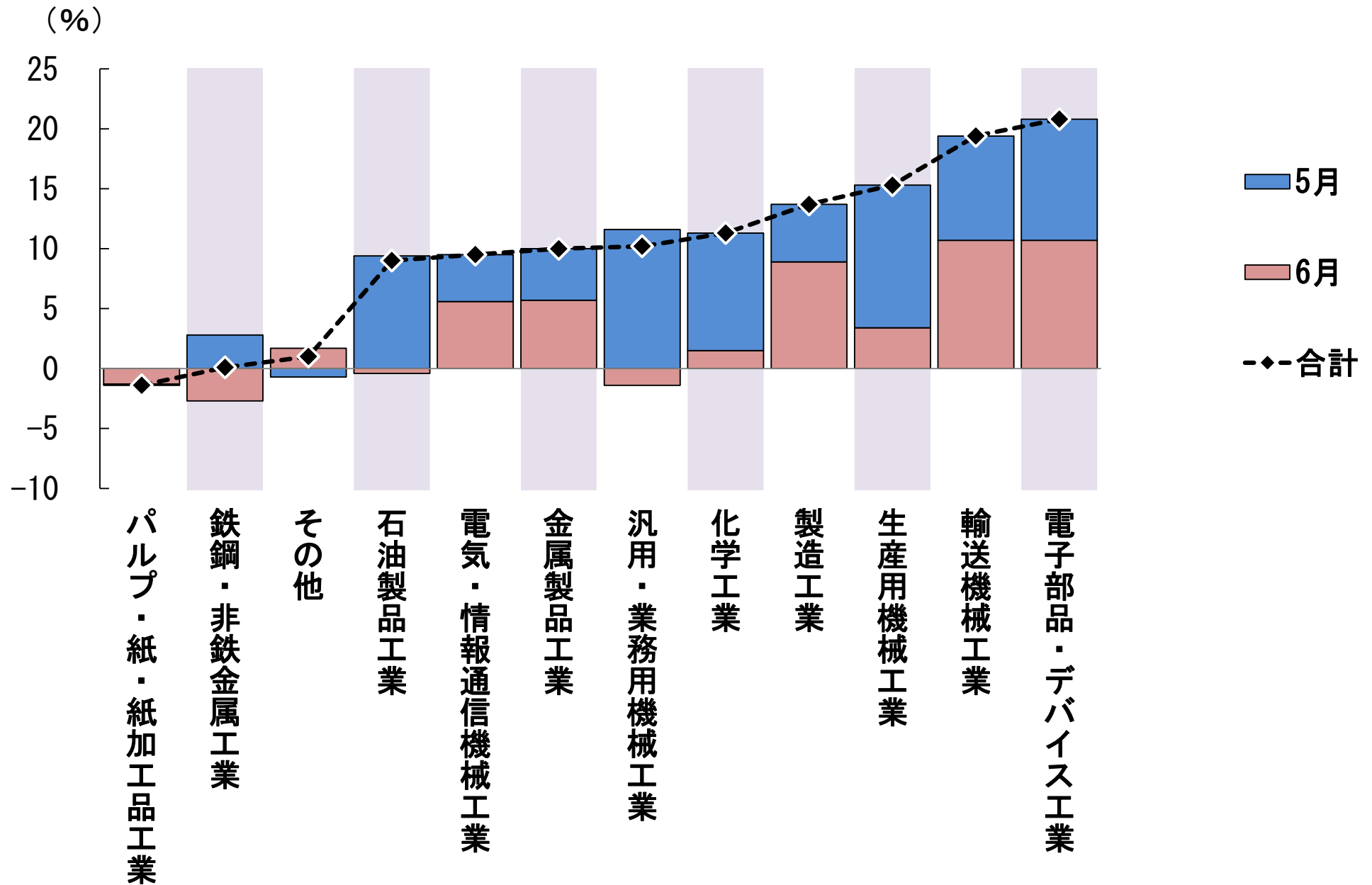
製造工業生産予測指数（当月、翌月の生産伸び率）

	4月調査 (前回)		5月調査 (今回)	5月調査 補正值
5月見込み	-0.8%	⇒	4.8%	-0.5% (-2.6%~1.6%)
6月見込み	—		8.9%	—

(参考) 前回調査の結果

	4月予測調査	4月補正值	実際の結果 鉱工業生産指数
4月前月比	5.8%	0.8% (-1.3%~2.9%)	-1.3%

2か月の生産予測伸び率（製造工業生産予測指数）



2022年5月生産計画の寄与順位表

上昇寄与業種		低下寄与業種		横ばいの業種	
業種名	計画前月比	業種名	計画前月比	業種名	計画前月比
生産用機械工業	11.9%	その他	-0.7%	—	—
輸送機械工業	8.7%	パルプ・紙・紙加工品工業	-0.1%		
汎用・業務用機械工業	11.6%				
化学工業	9.8%				
電子部品・デバイス工業	10.1%				
電気・情報通信機械工業	3.9%				
金属製品工業	4.3%				
鉄鋼・非鉄金属工業	2.8%				
石油製品工業	9.4%				

(注) 業種の並びは、寄与（影響度）が大きい順。

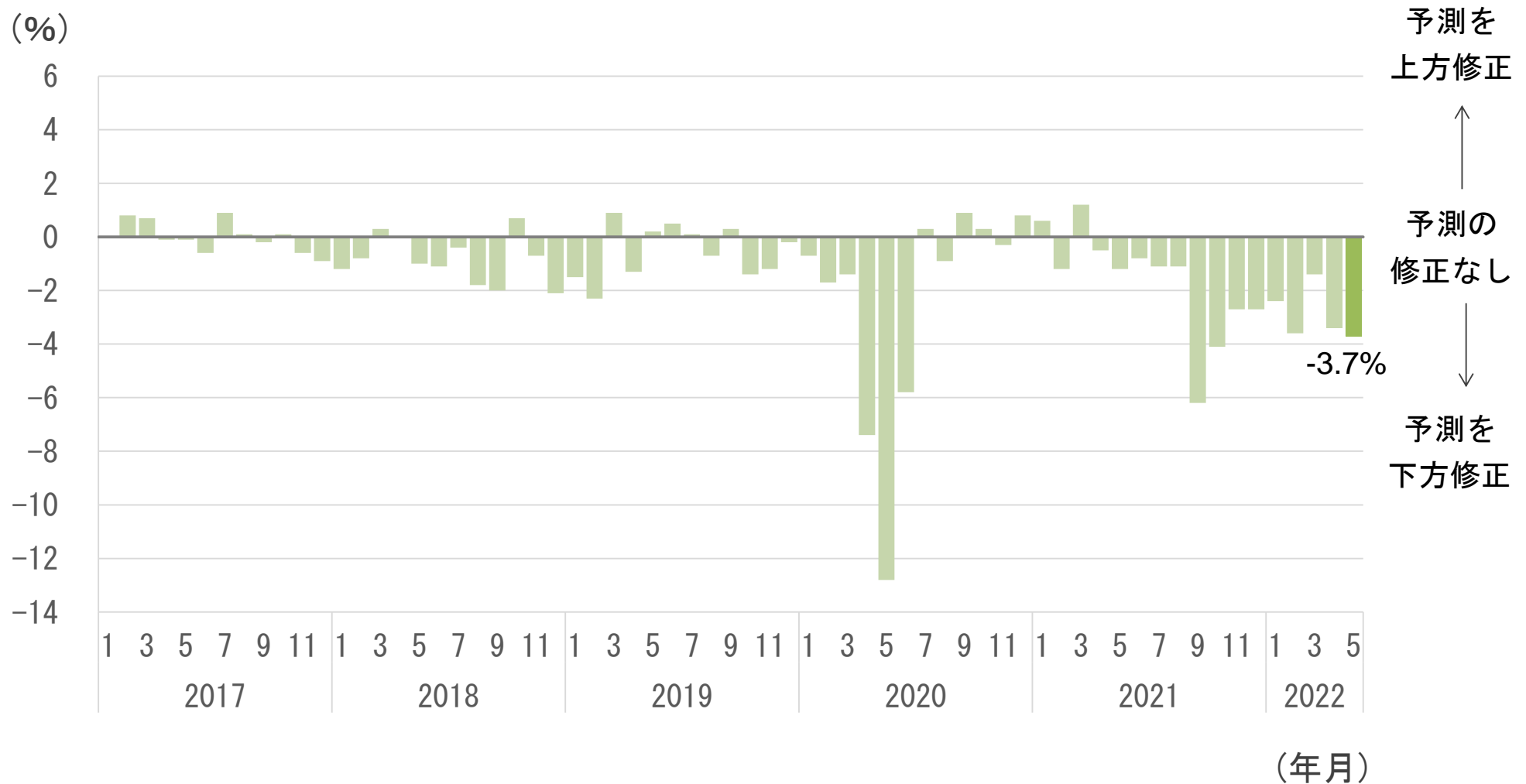
2022年6月生産計画の寄与順位表

上昇寄与業種		低下寄与業種		横ばいの業種	
業種名	計画前月比	業種名	計画前月比	業種名	計画前月比
輸送機械工業	10.7%	鉄鋼・非鉄金属工業	-2.7%	—	—
電子部品・デバイス工業	10.7%	汎用・業務用機械工業	-1.4%		
電気・情報通信機械工業	5.6%	パルプ・紙・紙加工品工業	-1.3%		
生産用機械工業	3.4%	石油製品工業	-0.4%		
金属製品工業	5.7%				
化学工業	1.5%				
その他	1.7%				

(注) 業種の並びは、寄与（影響度）が大きい順。

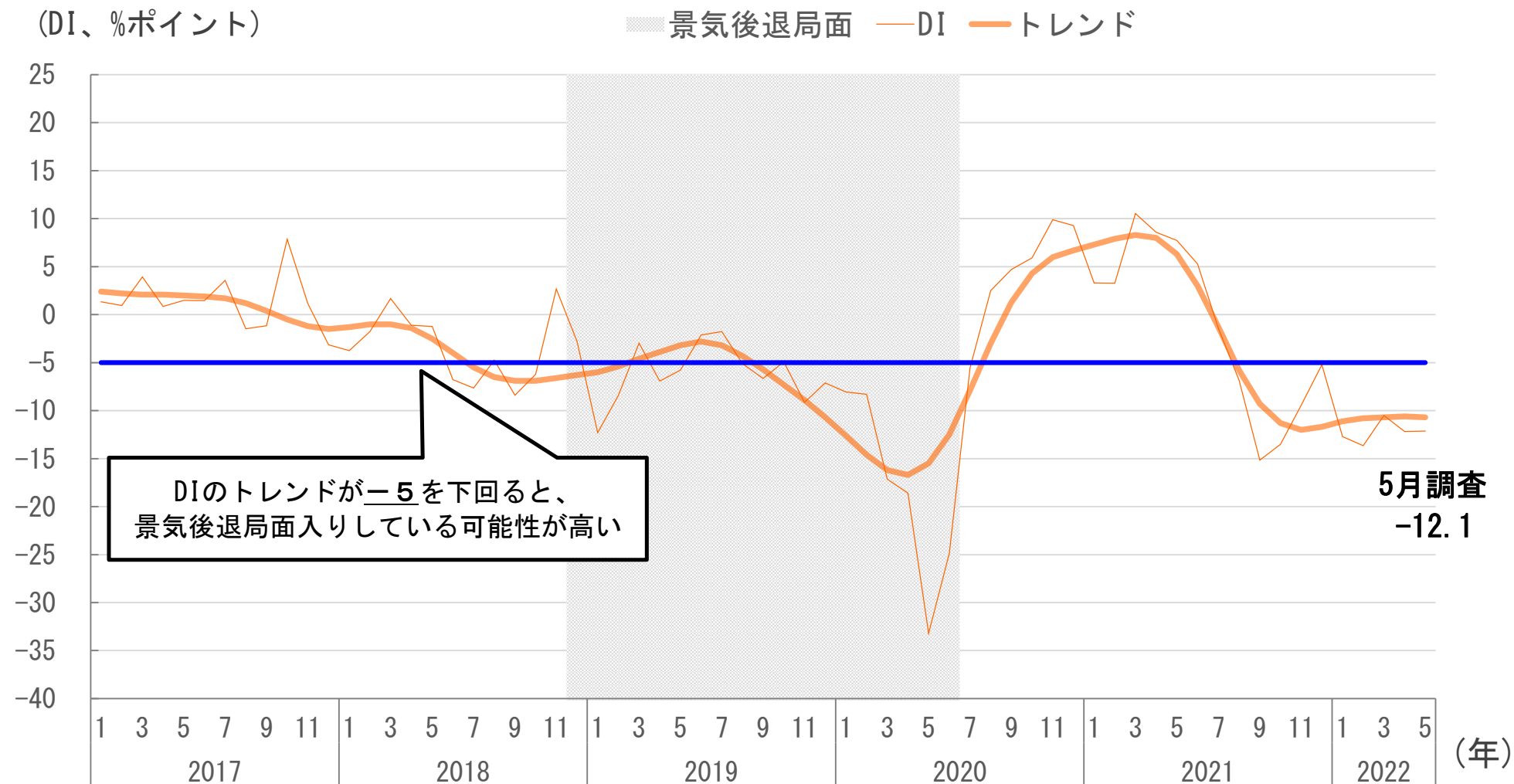
予測修正率の推移

- ・ 当月の生産計画が前回の生産計画からどの程度修正されたかを示したものが予測修正率となる。
- ・ 今回の調査では、予測修正率は-3.7%と低下。
- ・ 生産計画は14か月連続の下方修正となった。



企業の生産活動に対する姿勢（生産活動マインド指標（DI））

- ・生産計画を上方修正している企業の割合から下方修正している企業の割合を差し引くことで企業の生産活動マインドを指標（DI）化。
- ・DIのトレンドが-5を下回ると景気後退局面入りの可能性が高い。
- ・5月調査結果のDIは、-12.1（前月の-12.2から上昇）。トレンドは-10.7と-5を下回る水準。



強気と弱気の比率の変化

・5月調査結果のDIの内訳をみると、強気が23.7%、弱気が35.8%となっている。4月と比べて強気の割合は減少し、弱気の割合は減少した。

